

「私たちの為の主の十字架」ローマ5：6～8 12・4・1 今週は、受難週。受難週は、私たちの罪の為に主が苦しみの道を歩まれ、十字架で死なれた恵み、主の大きな愛と主を十字架につけて現わされた私たちへの神の大きな愛を深く思う時。また、今、私たちに苦しみがある時、想像を絶するほどの苦しみを受けられた主は、私達の苦しみを深く理解し、その主が共にいて私たちを支えて下さることを深く思いたい。Ⅰ「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました」：6。何にもまして私たちの救いの確かさを確信させるものは、まさに神の愛！この6節は、聖書の中でも最も偉大な節の一つ。この：6～：8の目的は、私達への救いを生み出した神の愛を示す事。代々の時代、最大の聖徒達を特徴づけていたのは常に、自分に対する神の愛を悟っていることにあった。私達の救いは、全く神と神の愛のもの。神の中には、罪への正しい憎しみ（神の怒りが罪の上に置かれている）と同時に、罪人（私達）への永遠の愛が存在している。救いは、神の永遠の愛から生まれたもの。神こそ、そのすべてを計画された方→「定められた時に」：6。指定された時、適切な時に。世界の基の置かれるよりもずっと前（エペソ1：4）に神がこの壮大な栄光に富む救いの道を計画された。主の十字架の贖罪によってのみ、救いが可能になるようにされた。「定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし」（ガラ4：4）。これを理解するのは、非常に重要。救いは、後知恵ではない。神の思いつきではない。神は、終わりの事を初めからご覧になる（イザヤ46：10）。一切の事を御存知。私たちの救いは行き当たりばったりのものではない。神は、すべてを世界の基の置かれる前から計画された。私たちの愛は、衝動的で移り気。神の愛は変わることなく永遠。世界が造られる前からさえ、神は私達のことを知り、私達に関心を抱き、私達の名前を神のいのちの書に記入しておられた。私達の事を気遣い永遠の愛（エレ31：3）ですずっと愛しておられた。何にもまして私達への神の愛を示す証拠は、神が世界の基の置かれる前から私達の事を意識し、選んでおられた事実。主が私達の身代わりに死なれる事は、私達が生まれる前から計画されていた。世界は、歴史の中で自分を救うための機会と時間を与えられていたが、完全に失敗していた。何物も人間を救うことはできないと証明されていた。そして神は、時満ちて、「定められた時に」、御子を救い主として遣わされた。①「私たちがまだ弱ったとき」→私たちが、自分で自分を救うことに関して、完全に無能力であったとき、主が私達の代わりに死に救いを成就された。どの点で、無能か。私たち人間は、自分の頭では、霊的な意味（主の十字架の死の意味）を決して理解できない。それは、御霊なる神によってわきまえるもの。無能とは、自分の力では、決して神を喜ばせる事が全くできない。また、自分の力では、決して神に従うことができない。これを悟ると、

ますます、私達の救いが、全く神の愛のおかげと感謝が生まれる。こんな私たちの為に十字架で死ぬために来られた主の愛、大切なひとり子を遣わされた神の驚くばかりの愛！②「不敬虔な者のために」死なれた。不敬虔とは＝i 私達が神に似ていないという事。神のかたち（御性質）に似せて造られた私たち人間は神に背き墮落し、神のかたち（御性質）が、汚損されてしまっている。ii 神に対する愛がない。私達人間は、自分たちに命を下さった神を愛さず、神に敵対している。神なんかいないという態度で生きている。本当は、神に生かしていただいているのに。また、自分勝手に造りだした神々を拝んでいる（偶像礼拝）。こんな私達の為に主は死なれた。ここに愛がある。「私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉（罪）の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし—あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」（エペ2：3-5）。③「私たちがまだ罪人であったとき」主は私たちのために死なれた。：8。自分の罪を認めず、主を信じる気もなかったとき、主は私達を愛して死んで下さった。罪人（自分の心から出て来るものは、「悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさ」マルコ7：21, 22）であったとき。主は身代わりに死んで下さった。神が私達に対する愛を証明しておられるのは、私達が罪人であったとき＝神の正義によるさばき、御怒りを受けるに値した時、自分の罪故に刑罰を受け、魂を永遠に滅ぼされ、神の御前から退けられて当然の時に、神は現実に御子を遣わし、私達の罪の為に死なせてくださった事実による。これまでこの神の愛を誰よりも尊んで来たのは常に、自分の罪深さを最も自覚している人々であった。主は、御自身には何の罪もなかったのに、私達の為に十字架につけられた。ののしられ、あざけられた。「たった今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら信じるから」と言われた。主は、降りる力も持っておられた。力を見せつける事もおできになった。しかし、十字架（神の御心）にとどまられた。それは、力を見せつけるために十字架から降りられたなら、私達の罪の為の償いのわざ、救いの業が成就しないから。「人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。…あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うように、あなたがたに模範を残されました」I ペテ2：19, 21。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び」ヘブ12：2